
守木の桜

狂狗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

守木の桜

【Nコード】

N7106H

【作者名】

狂狗

【あらすじ】

今だ収まらない嵐の中「桜の花は、何故ほのかな赤みを孕んでいるのだと思う？」その人は、微笑みながら話を始めた。あの人は、もう……8/28注意を追加しました【この小説は単独で読んでも訳が解りません、後々読んでもらった方が面白いかと思います】

（前書き）

意味がわかりにくいです。あと、オチがひどいです、（笑）と言った意味で。

ざあ……

風が木々の梢を鳴らす、夜の帳が全てを覆い隠す森の中、その桜だけは月光の元神々しいまでの偉容を見せていた。強い風が桜の花びらを散らし、その人の髪を躍らせた。

その人は、微笑んだ。

「桜の花は、何故ほのかな赤みを孕んでいるのだと思う？」

桜の花と同じ色をした髪は、空を舞う花弁と交じり合い、境界を曖昧にさせていた、今にも桜の中に消えてしまうのではないかとさえ思えた。

しかしその人は確固たる存在感を持ち、花弁のように何処かへ消えはしなかった。

その人は返事を待たずに、話を続けた。

「桜の花の色は本当は真っ白で、桜の下に埋まっている死体の血を吸って花を咲かせているから、こんな色になるのだ。と言う人もいるよね」

ざあざあ、相変わらず風が吹いていた。桜の花弁が空を舞い踊っている、たった一本の桜が織りなす、視界一面の桜吹雪。夢なのではないかと、疑ってしまうほどに美しい。

外は嵐なのだ、ここはこんなに美しいのに、嵐は未だに収まらないのだ。

その人は、一人で話し続けた。

「私は思うんだ。桜が人の血を、人の死を。汚れを吸って咲いていると言うなら、桜は汚れを美しいものに浄化してくれているのではないかと」

一面の桜色の中に、青があつた。一点の曇りも無い青空のような色彩だった。振り向いたその人の目は、お日様のように、温かくて、木漏れ日のように優しくかった。

こんな荒んだ、酷い時代なのに、この人は変わらない。多少思想が違う、それだけで争う奴等とは大違いだ。この人は、いつまで経っても優しいままだ。

その人は、言った。

「私の夢は、雲の上の青空なんだ」

もはや青空の存在さえ忘れかけているのに、もはや希望を持つ事にさえ疲れてしまうのに。誰もが無理だと言っているのに、誰もが既に諦めているのに、その人は。

そんな夢、叶えられる訳が無いのに。無理をすれば、枯れるのは自分だと解っているだろうに、この人は。

「私にそんな力があるというなら、少しでも雲を払えるよう、花を咲かせようと思うよ」

笑った、笑って言った。

「君は青空を見届けてくれ」

その笑顔が、あまりに綺麗だったから。
希望を持つてみるのも悪くない、と思えた。

ざあ……

風が木々の梢を鳴らす、朝靄に白んできた森の中、その桜の一枝を手折った。花は真つ白で、枝は真つ黒だった。強い風が桜を揺らす。花弁は一枚も散らない、この枝以外にもう花は無い。

そして、

あの人も、もう居ない。

問題： 次の文章は本文中のどの部分に挿入するのが最も適切か。
その前後の三字を抜き出せ。（句読点は含まない）

「だからこの辺りを掘り返すと、白骨死体でも出るかもしれない」
「出るんですか!？」

「いや、多分出ないよ」

はっはっはっは、その人は楽しそうに笑った。楽しそうに、実に楽しそうに。そうか、そんなに人をからかうのは楽しいか、貴方だけはまともだと思っていたのに。

「ここ、いろんな物が埋まってるからね。呪物とか、怨念とか、目とか、邪気とか。死体ぐらい探せばあるんじゃないかなあ？」

からかって言った訳じゃなかったー!? もう言葉も出ない、貴方の笑顔が恐ろしい。

「それは置いといて……」

いいのか、置いといて。もしかしたら足元に死体があるかもしれないんだぞ。正直気になって仕方ないのだが、そう言った事に対する考慮は無いらしい。

解答： 知らん

続きません

(後書き)

アハッ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7106h/>

守木の桜

2010年10月13日17時36分発行